

東京民医連

東日本大震災 ニュース

2011年3月17日

No.19

発行：東京民医連事務局

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：

soumu@tokyominiren.gr.jp

東葛病院 給水施設に大きな被害



東葛病院では貯水タンクが破損して断水が続き病棟のトイレが使えない、オペが出来ない、使い捨ての物品在庫が少なくなるなどの支障をきたしていました。計画停電が連日行われており、自家発電での対応を余儀なくされています。自家発電に切り替わる際にはコンピュータシステムがダウンし検査関係、処方箋発行など様々なトラブルが起こっています。更に千葉は、東京に比べ電車の運休が多くまた自家用車を使用して通勤している職員が多いため、病棟の中心となる職員が病院に通勤できない状況が生まれています。ガソリンの確保が難しいため、在宅患者さんの訪問の対象を独居の方に限定せざるを得ない状況にもなっています。しかし、こうした事態だからこそ職員が丸となって東葛地域の医療を守ると同時に被災地に支援を出して頑張ろうと、毎日朝・昼・夕と職員会議を行って奮闘しています。

都知事へ緊急要請

16日、東京民医連は、医療機関・介護事業所・臨床検査所へ優先的に給油できるようにすること、「計画停電」から医療機関を外すように東京電力に申入れを行うことの2点を緊急措置として東京都に要請しました。さらに、日本共産党東京都議団を通じて、関係業界、事業者に対して東京都がはたらきかけるよう都知事へ申入れを行いました。

東都協議会災害支援チーム 帰着報告（南葛勤医協本部 星野 陽子看護部長）

坂総合病院の駐車場に各地から東日本大震災医療支援チーム～民医連と横断幕が貼られた車がいっぱい到着しており、本当に困難な中での民医連の連帯の強さに感動します。坂総合病院では看護師不足の中で一部ベッド閉鎖をしていましたが、急遽全館3交替から2交替に切り替え、110%位の稼働で最大限患者を受け入れています。外来も緊急外来のみの稼働でトリアージしながら最大受け入れここに箕輪医師、加藤、伊藤、守田看護師が連日21時過ぎまで（箕輪医師は深夜帯も）奮闘していました。医師も看護師もガソリンが手に入らないので、近隣に住んでいる人以外は病院で寝泊りしています。ギリギリ元気ですが、今後心のケアが必要な状況です。避難所へは連日5～6チームが毎回医師・看護・事務で医療相談、投薬を続けています。自治体も被災で機能麻痺しており、いち早く避難所周りをしている民医連の底力を感じます。